



千九百二十年六月二十七日
倫敦支那電報抄譯
日本財政論

2049



114
A1431

攻撃社説
甲号
是ナリ



密信

山峯源次郎記

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

元大ニ参議大隈公ノ著述ニ係ル日本財政ノ冊
子ヲ攻撃セリ因テ青木周造氏ノ許可ヲ得テ下
名人其辯駁書ヲ作り右新聞記者ニ送り併テ其
社新聞紙ニ登録セシメテ申遣シタリ但シ此辯
駁書ノ官跡ノ性質アルヲ避ケンカ為ニ注意ヲ
為シ目今別林府留學中ナル書生ノ本多氏ニ
名ヲ借レリ同氏固ヨリ喜シテ承諾セラレタリ
而シテ記者ヨリ下名人ニ右辯駁書ハ七月二十

次便送付スルモノ
兩号是ナリ

別紙ハ乙号是ナリ

九月ノ刊行ニ登録セシカ猶ホ又々八月二日ノ
刊行ニモ登録スヘキ旨ヲ申越タリ然ルニ今日
ニ至ル迄未タ落手セサルカ故ニ次便送付ス
シ
ハウル氏ハ以前横濱ニ於テ新聞記者ナリシカ
此節倫敦支那電報新聞記者社ニ投書セラレタ
リ即チ此書状ニ添付スル所ノ別紙是ナリ此投
書タルヤ概シテ大隈氏ヲ擁護スルモノナリト
雖氏又々一方ニ向テハ彼ノ會計冊子ニ於テ記
者カ大隈氏ヲ非難スルヲ許可スルモノ、如シ

下名ノ部分ヲ見ヨ然シ下名ノ書本多ノ記名ア
ルモノ陳述スル所ハ報道ノ不足ナルカ為ノ縱
然十分擁護防禦スルヲ能ハサルモ稍ヤ其寛ヲ
零クニ足ルヘシト信スルナリ

一千八百八十一年八月四日

在別林府

ハロシ、フオン、シーボルト

峯源次郎 譯

一千八百八十一年六月二十七日倫敦刊行

倫敦支那電報新聞抄譯

日本財政論

倫敦支那電報新聞社說

甲号

頃日東京ニ於テ十三年間財政要覽(千八百六十八年乃至八十年)下称スル冊子ヲ發兌セリ著述者ハ大隈重信氏ニシテ明治政府ノ政策ヲ保護シ因テ以テ其目的トスル所ハ今日困難ナル國債ノ万已ムヲ得サルニ出タルヲ証明スルモノナリ而シテ此冊子ハ杜撰ノ編輯ナリト云ハ

己マン然レモ苟モ杜撰ニ非ラスト云ハ、著述者其事業ノ困難ナルニ苦ミ偽作ヲ為シ故サラニ天下公衆ヲシテ其真正ノ計算ヲ知ルヲ得サラシムルノ意ニ出ツルナキヤ如何ヲ疑ハシムルニ及ハリ

然リ而シテ此冊子中言フ所ヲ視レハ多ク辨解ヲ為スノ文体ニシテ之レヲ論文トシテハ受取ラレサルモノ、如シ故ニ此十三年間財政要覽ノ結果ハ現今財政ノ困難ヲ表スルニ外ナラサルナリ但シ将来警戒スル所アルヲ誓ヒ從テ事

物漸々改良セントヲ期望スルノ意ヲ籠タリ諸人ノ知ル如ク統計ナルモノハ稍モスレハ人ヲシテ誘惑セシメ易キモノナリ然ルニ此冊子ノ如キハ最モ然リトス此冊子ノ開卷第一ニ於テ表ノ陳述アリテ十三年間僅ニ二箇年ヲ除ケハ其他ハ歳入大ニ歳出ニ超過セシ記載アルヲ見ル然レモ猶ホ其下条ヲ讀ム片ハ實際ノ歳入ハ大ニ然ラサルヲ見ル例之ハ表ノ陳述ニ於テ一千八百六十八年(明治元年)ノ歳入ハ三千三百八万四ト計算セリ然ルニ其実ハ唯三百六拾六万

四ノミナリキ其不足高ハ借入金ヲ為シ及ヒ紙幣ヲ発行シテ之レヲ充填セシモノナリ
又タ一千八百七十八年乃至九年（明治十一年乃至十二年即十一年度ナリ）ニ於テハ歳入六千一百八十六万四千ナリト云ヘリ然レモ余輩政府紙幣ノ発行高八千五百七拾万四千ニ上レルヲ見ル且ツ又タ一千八百七十九年乃至八十年（明治十二年乃至十三年）ニ於ケル税額ハ五千四百五拾五万四千ナリ
右ノ如ク紙幣發行アルニモ拘ハラズ此冊子中

ニハ歳入増加ヲ云フテ止サルヲ見ル是レ余カ右等ノ計簿面ヲ見テ其計簿ノ明解ヲ得サルニ苦シム所以ナリ而シテ日本國ノ状態ヲ開陳スルアルモ徒ニ朦朧トシテ明決ナキノ感ヲ増ス
又タ紙幣發行額ヲ示スノ記載アリ即チ紙幣ノ流通額ハ一億八百六拾八万四千ニシテ準備高ハ稍減九拾万四千アリト云ヘリ然レモ此準備高ハ稍減少シテ四千五百八拾万四千ニ下リシヲ見ル但シ其差額ノ分ハ諸省工業ノ資金ニ充テ又タ臨時

諸會社ノ貸下金ト為シ其益金ハ準備金中ニ採
入タルヲ見ル又タ此冊子ノ主意ヲ熟考スレハ
預メ余カ考定セシカ如ク巨大ノ歳出中其ノ多
分ヲ以テ旧來ヨリ引継タルモノト為シ負債全
額ノ八分ト一ノ三ヲ以テ明治政府ノ負債ナリ
トセリ然レ氏茲ニ更ニ不明ナル陳述アリ明治
政府ノ負債ノ金額ハ三千七百三拾四万四ナリ
ト云ヘリ然ルニ薩賊征討費ノ一條目ニシテモ
四千一百万四ナリ是レハ借入ト紙幣トヲ以テ
償フタルヘキニ表面ニハ獨リ一千五百万四ノ

ミヲ記シタリ豈ニ奇怪ナラス哉現今ニ於テハ
内國債二億三千八百三拾五万四ニシテ外國債
ハ一千一百一十万四ニ上リ内外債金額ニテ三億
五千八拾四万四ニ達セリ但シ此負債額ニ對シ
テ準備金貸出金ヲ併セテ五千八百六拾三万四
アリ然リ而シテ此冊子ノ通篇皆陳述ノ夥多ナ
ルヲ見ル而シテ其陳述ハ各處同轍ニシテ小異
アルニ又タ註脚アリテ陳述ノ文ニ付キ此限
ニ非ラスト其主意ヲ斷ハルノ所アリ此冊子中
言フ所ノ日本進歩云云ニ付ハ此冊子著述ノ目

的トスル所單ニ日本進歩ヲ表スル為ナリト云
ハ、余復タ何ヲカ云ハンヤ然レモ事物隆盛ノ
状態ヲ世ニ知ラシメンカ為ニ此統計表ハ著述
ニナリタルハ其煩勞少ナカラサルヘシ但シ其
功ハ多カラサルヘケレハ功勞相償ハサルモノ
ト云フヘシ復タ潤笑スヘキナリ從來政府財政
上經驗ヲ試ミシモノ少ナシトセス然レモ常ニ
失敗ヲ招キ終ニ世上ノ信用ヲ失フニ及ヘリ故
ニ日本政府ハ財政ヲ為スニ嚴精緻密其眞実ヲ
表示シ外面ヲ修飾スルナカラシテ是レ余カ望

ニナリ故ニ政府為ス所ノ改良進歩ハ其功績ナ
カラサルヘカラス毎歲出納計簿ヲ精密ニ調
整シ眞ノ事實ヲ記載スルニ於テハ困難ノ事件
ハ潮水ニ從テ流去スヘシ抑モ今ヤ余輩評論ヲ
下ス所ノ右冊子ハ從來其種ノ書類ナカリシカ
企圖^ニセシ編纂^ニ係ルモノナリ而シテ隨分善良
ナルハ復タ疑フヘカラサルナリ然レモ余輩目
撃スル所ニ據レハ右等ノ如キ書類ハ複雑ノ辨
明ヲ附センヨリハ寧口簡單平易ノ説明アルヲ
勝レリトス其事實ハ固ヨリ我カ是非スル所ニ

非ナルモ其説明法ハ甚タ余カ好マサル所ニシ
テ徒ニ弊害ヲ来スリミト云フヘシ

一千八百八十一年七月二十日倫敦刊行倫
敦支電報新聞抄訳

日本財政論ハウルク氏ヨリ倫敦支那電
報新聞社ヘノ投書

倫敦支那電報新聞記者足下去月二十七日刊行
貴社新聞社説日本財政論ハ大隈重信閣下ノ説
ニ十分服セサルモノ、如シ即チ右閣下ノ著述
ニ係ル冊子十三年間一千八百六十八年乃至八
十年財政要覧ハ足下ノ論題ナリ足下ノ言ニ右
冊子ハ杜撰ノ編輯ナリト云ハ、已マン然レト

苟モ杜撰ニ非ラスト云ハ、作者其事業ノ困難
ナルニ苦ニ偽作ヲ為シ終ニ天下公衆ヲシテ其
真正ノ計算ヲ知ルヲ得サラシムルノ意ニ出ツ
ルナキヤ如何ヲ疑ハシムルニ及ヘリト云ヘリ
然レモ其言タルヤ切驗ナキヲ如何セン然レハ
總テ余ハ余カ所見ニ據テ足下カ前大藏卿ニ對
シタル攻撃ノ其事實ヲ失シ徒ニ爭論ヲ好ニ井
蛙ノ見ヲ噴々スルニ過サルノミト云フハ勿論
ノヲニテ敢テ不敬ヲ以テ足下ニ謝セサル所ナ
リ

イ、セイ、リード君カ日本ニ於テ著作サレタル
書ヲ讀ミ同君カ大隈參議ヲ評セラレタル事跡
ヲ知ラサレハ大隈參議カ才幹愛國忠誠上ニ付
テ未タ邊ニ其如何ヲ疑フヘカラサルナリ近頃
日本ヨリ來ル新聞ニ依レハ大隈公ハ伊藤公ト
共ニ連名ニテ太政大臣ヘ一書ヲ建白セラレタ
ルヲ見ルナリ其書中ニハ人民ノ工業ハ保護セ
ス官吏ト官省ト相競争スルハ不条理ナル旨ヲ
開陳セラレタリ此風岸孤聳ノ剛勇アルヲ以テ
觀ルハ余カ今足下ニ大隈公ノ識量性質ヲ以

テ説明セシヨリモ公カ政事上又タ大ニ長スル
所アルヲ知ルヘキナリ是レ多言ヲ要セス即チ
下条ヲ見ルヘシ夫レ人口三千万以上アル國土
ノ會計ニシテ十三年以上ニ亘ルモノハ固ヨリ
遣拂金額モ巨額ニ至リ詳細ノ説明ヲ要セサル
ヘカラサルナリ又タ試ニ十三年以前王政革新
ノ未タ十分ノ位置ニ至ラス中央政府ヲ未タ江
戸ニ置カサル以前ヲ回想セヨ當時諸藩ハ各自
其固有ノ國務ヲ報リ其租稅ヲ徵集シ之レヲ消
費シ其固有ノ造幣局ヲ有シ其紙幣ヲ發行スル

ノ状態ニシテ敢テ之レヲ帰一統括スルモノナ
カリキ然レモ王政革新成功後中央政府其統括
管理ノ權ヲ掌握シ諸藩ノ負債ヲ引受タリ此ニ
至テ日本全國ノ會計取扱ノ為ニ新規有益完全
ノ機關ヲ一屋中ニ創置セリ
而シテ其方法組織規則并ニ此機關ノ支配方ニ
付テ與テカアルモノハ諸公中大隈重信閣下ニ
過クルモノナカリキハ疑ヲ容レサルナリ而シ
テ處務ノ巨大ナルモ困難ナルモ右ノ方法ニ由
テ容易ニ辨スルヲ得テ其處辨方モ順序ヲ乱サ

又整齊規則ヲ踏ミ明白ニシテ且ツ速カニ成就
セシヲ見ルナリ蓋シ此機關設立ノ功用ハ事實
ヲ知ラサル記者カ嘲弄^ヲヨリモ大ナルハ是レ余
カ疑ハサル所ナリ此時ニ當テ日本ノ會計ハ其
内外人ヲ問ハス苟モ日本ノ為ニ計ルモノ、衆
情ニハ憂慮スヘキノ情態アリト云フハ余輩カ
敢テ拒マサル所ナリ而シテ余輩ハ大隈閣下ノ
冊子ヲ以テ歐洲理財家カ編製シタルカ如ク其
体裁方法等便利ヲ尽シ至極明朗ナリトシテ之
レニ満足スルニハ非サルナリ然レモ大藏省ニ

於テ大隈閣下カ殘金ト歳入ノ餘贏ナリトシテ
國債ノ外ニ列記スル準備金トノ差別判然セサ
ルヲ見ル是レ他ナシ閣下カ全ク其名目ノ本意
ヲ知ラサルニ坐スルモノナルカ故ニ余ハ怒レ
テ之レヲ問ハサルナリ而シテ余ハ又タ彼レ閣
下カ紙幣ヲ發行シ一時危急ノ大藏ヲ支エシニ
拘ハラス其發行セシ紙幣ハ即チ負債ナルトヲ
彼レ閣下カ真ニ了解シテ居ラレシヤハ余レ未
タ知ラサルナリ恐クハ彼レ閣下ハ其紙幣ヲ以
テ負債ナリトハ了解セラレサルモノ、如シ

是レ余輩カ、シヤツパン、ガセツト新聞上登記ス
ル所ノ計算明解ヲ精細吟味セシ上ノ決定ナリ
斯ク云ヘハ餘リ激烈ニ過ルカナレモ足下記者
ハ何故ニ速了ノ見解ヲ下シテ大ニ其正鵠ヲ失
セシヤ是レ余カ足下ノ為ニ疑フ所ナリ且ツ又
タ一層激烈ニ明言スヘキハ記者ノ過誤タルヤ
元来日本ノ紙幣ノ性質ヲ知ラサルニ出ツルモ
ノナリト云フト是ナリ然ルニ大藏卿カ右ノ如
ク僅カ二十四時間ニ發覺シ其名譽自由ヲ毀損
スヘキ程ノ偽作ヲ有心故造ニテ為セシニ非ス

ヤト想像スルハ抑モ背理ニ非サルナキヲ得ン
ヤ右ノ如ク精神ノ覺束ナキ大藏卿ハ勿論其任
ニ堪ヘサルヘシ而シテ余カ閣下ノ名譽ヲ保護
スルニ却テ閣下ノ徳ヲ害スヘシト云フモノ無
キヲ保セサルナリ但シ此儀ハ偏頗ノ人ハ日本
ノ財政官ノ下ヲ能ク知ラサルカ故ニ右等ノ如
キ説ヲ為スナルヘシ而モ皂白ヲ辨スル人ハ其
是非ヲ看破シ得ヘキハ勿論ナリ然レモ中央収
税ノ機關新設ノ國ニ於テハ正貨ノ代用ニ發行
セシ紙幣カ一時施政ノ情態ニ於テ國益トナリ

又々或時ニハ施政ノ他ノ情態ニ於テ大ニ國ノ
損害トナルモノ~~ト~~タルハ論ヲ待サルナ
リ然ラハ則チ其政事家ハ其稍マ過失アルモ之
レヲ恕スヘキナリ蓋シ時日ノ進行スル間ニハ
其過失ハ改正スルヲ得ヘケレハナリ
然リト雖モ時日ノ經過シテ其後年ヲ見ルニ至
ラサレハ其政事家ノ過失ヲ一掃スル~~ト~~ハ蓋シ
能ハサルヘシ
余輩ハ大隈閣下ノ冊子ヲ分疎シテ遺漏ナカラ
シメンカ為ニ貴社新聞ノ餘白ヲ汚ス~~ト~~過分ナ

ルヘシ然レモ右ハ貴社ノ社説獨能ク十分尽シ
タレハ別ニ解説モ不用ナルヘキ乎ハ知ラサレ
モ余輩匆々ニ看過シ黙々ニ付スル能ハサレハ
今斯ニ敢テ卑見ヲ開陳シ併テ貴社新聞讀者ニ
實セントス即チ左ノ如シ足下曰ク日本國債總
額ハ三億五千八拾四万四ニシテ此金額ニ對ス
ル準備貸附金ノ總額五千八百六拾三万四アリ
ト是レ其計算ハ則チ正當ナリ然レモ此計算ノ
方法甚タ不都合ナルカ故ニ日本ハ割合ニ貧國
ナリト思ヒ且ツ國債ノ成立ヲ知ラサルモノハ

日本ノ財政ハ殆ント危険ノ深淵ニ臨ミタリト
 思フニ至ルヘシ故ニ是ヲ説明センカ為ニ即チ
 余カ目的ヲ達センカ為ニ各年ノ國債金額ヲ掲
 出スヘシ蓋シ準備金ニ由リ減額スルヲナキ純
 粹ノ國債額ナリ而シテ其準備金ハ一千八百七
 十二年(明治五年)ニ於テ二千六百二十拾八万四千
 リシモリ漸々増加シテ今日五千八百六拾三万
 四ノ額數ニ至ルモリナリ是レ又タ知ラサルヘ
 カラサルナリ即チ國債金額尤ノ如シ

國債金額表

一千八百七十二年	一〇四、二四〇、〇〇〇
一千八百七十三年	一二九、二〇〇、〇〇〇
一千八百七十四年	一三三、三五〇
一千八百七十五年	一四二、二八〇、〇〇〇
一千八百七十六年	一四八、九二〇、〇〇〇
一千八百七十七年	一六三、二二〇、〇〇〇
一千八百七十八年	一七五、二五〇、〇〇〇
一千八百七十九年	一八三、三二〇、〇〇〇
一千八百八十年	一九八、〇〇〇、〇〇〇
今ヤ右ノ表面ニ由ルキハ一千八百七十六年(明	

明治九年(一八七七年)至明治十年(一八七七年)之間、
於テ國債非常ノ増加アリ。觀ルニ是レ二億二千
五百万円ニ下ラサル金額ニシテ日本ノ歳入ニ
比較スレハ過大ノ債額ナリ且ツ當時外國トノ
交戦モアラサルニ此ノ非常ノ國債ヲ増加セリ
此國債増加タルヤ他ナシニ原因ニ歸着スルノ
三即チ左ノ如シ
第一武士ノ常職ヲ解キ且ツ神職等ノ世襲ノ禄
ヲ叔ノ秩禄公債証書ヲ渡シタルカ為メ其負債
高一億七千四百円ナリ

第二薩摩九州反徒征討費二千七百万円ナリ(但
シ差引計算ニテ残金一千四百円ナリト云フ
然レ氏余ヤ右ノ計算ニ付キ十分確實ヲ得ヌ又
タ確實ヲ得タレハトテ大計ニ關係ナキヲ以テ
敢テ斯ニ詳説セサルヘシ)
然レ氏士族ノ秩禄資金ノ為ニ國家ノ負擔スヘ
キモノトナリタル金額ヲ以テ永代債即チ歳入
ヨリ拂フヘキ負債ノ部ニ組入ルルハ大過ニシ
テ紛雜ヲ来スノ原因ナリヘシ第一ニハ此ノ一
億七千四百万円ノ年利ハ一千三百万円ナリ而

此テ此金額ハ一千八百七十六年(明治九年)ノ布
告ニ由テ廢止シタル士族并ニ一千八百六十八
年(明治元年)降伏セシ貴族ノ旧采地ノ地代等ヲ
以テ十分辨償スルヲ得ヘシ第一ニハ右等ノ如
ク政府ニ収メタル土地ノ代物トシテ年々政府
ヨリ保証スル年賦金ハ一千八百七十六年(明治
九年)ヨリ起算シテ五年乃至二十八年間ニハ滿
期ナルヘシ右ノ収柄ナルカ故ニ國債ノ此部ニ
於テ利息ヲ拂フニ別段ノ費途ヲ要セサルヘシ
加之此ノ有期年賦ノ元金ト雖モ今ヤ既ニ減額

ヲ表セリ而シテ年々政府ハ金額ヲ増加シ一千
九百四年(明治三十七年)ニ至レハ秩祿公債証書
ハ悉皆政府ノ責任ヲ免カルヘシ
薩賊征討ノ為ニ費用シタル二千七百万圓ノ金
額ニ付テハ猶ホ一言ヲ要ス此及徒ニ於テ日本
ノ封建制度全ク廢滅ニ歸シ勇將西郷吉之助死
セリ并具

一千八百八十一年七月八日在倫敦

知ブリユウ、シ、ハ、ウ、ル

倫敦支那電報新聞記者

足下

右一編ハ「ダブサユウ」ハウル氏ヨリノ
投書ニシテ其詳細ノ評論ハ我カ社説ト同
様ナルニ似タリ勿論我カ社説ト雖在大隈
閣下ヲ非難シタルニハ非サルナリ而シテ
其投書ニモ理財ノ謬誤ヲ指示セリ且ツ其
投書ニハ我カ社説ニ云ハサル他ノ事件ニ
追論及セルヲ見ルナリ

倫敦支那電報新聞記者識

一千八百八十一年八月三日倫敦刊行

倫敦支那電報新聞抄譯

日本財政論

本多氏ヨリ倫敦支那電報新聞社ヘノ投書 丙號

倫敦支那電報新聞記者足下去月二十七日刊行
貴社新聞社説ニ於テ現今參議ノ一人ニシテ前
大藏卿ナリシ大隈重信氏ノ著作ニ係ル冊子ニ
就テ評論ヲ下セリ但シ是下ノ言ハ所ニ依レハ
冊子中登記スレテノ統計ハ多分ハ會計富祐ノ
外形ヲ飾レテノ主意ニテ制定セシモノ、如ク徒

附載スル所ノ表目ノ陳述ニ過サルモノナリ
ト明示セリ
四月二日刊行ノ「新報」於テ余輩
ハ貴社ノ論題ナル右冊子ノ翻譯ヲ發見セリ而
シテ潜心コレヲ披閱セリ殊ニ足下ノ非難ノ儀
ニ関シテ之レヲ看讀ヤリ然リ而シテ余ヤ足下
ト同一ノ考定ニ至ラサルノミナラス却テ足下
ノ考定コソ余カ解セサルモノナルカ如ク覺ヘ
タリ蓋シ余ヤ日本參議ノ確定セシ計算ニ秋毫
モ疑團ナケレハナリ故ニ次條ニ於テ余ヤ余カ

所見ノ結果ヲ開陳スル自由ヲ得ント欲ス
足下論述スル所ノ第一表ヲ以テ足下ニハ大藏
卿カ偽作ノ餘贏ヲ表セシモノト見做サレタル
モノ、如シ然レハ此表ハ現ニ歲入歲出差引殘
額ヲ表示スルモノニ非ラサルハ明白ナリ即チ
唯タ佛國會計法ニ所謂ル「コリント」ト、デ、オ、ヘ、テ、チ
ヲン、デ、ラ、ニ、ト、ニ、シ、テ、英、語、ニ、之、レ、ヲ、大、藏、省、コ、リ
ノ、行、收、入、ト、云、フ、モ、ナ、ラ、ズ、ハ、理
取モ觀易ナリナリ其法タルヤ他ノ表中ニ
明示セリ金額ノ出處ト行方トヲ問ハズ單ニ大

蔵省ノ出納局ニ於テ受授セシ悉皆ノ額數ヲ合
ル所ノ表目ニ外テラサルナリ故ニ此表ニ
於テ有金ノ部ハ其金目ノ稅也然レ金也其他
等也其種ヲ問ハス受取タルモノハ一切登記セ
ル全計ヲ表スルナリ此故ニ大蔵省發行ノ紙幣
カ此計算上ニ在ルハ自然相當ノコトニテ怪シム
ニ足ラサルナリ然レ右ハ歲入ノ真ノ利源ニ
非ラス即チ其餘贏ハ真ノ國益ニ非サルカ故ニ
大蔵卿ハ其真ノ性質ヲ明白詳細ニ次條ノ言語
ニ讓ルヲ見ル即チ左ノ如シ

一千八百六十八年(明治元年)ヨリ一千八百七十
五年(明治八年)ノ上半ケ年迄ノ期限ニ於ケル計
算報告ニ就テ其内五ケ年間即チ一千八百六十
八年(明治元年)ヨリ一千八百七十二年(明治五年)
迄紙幣ノ發行アリ故ニ前段ノ表中ニ記述スル
餘贏ハ其實歲入ノ不足ナリシカ故ニ紙幣ヲ發
行シテ其危急ヲ凌キヨリキ云云
事ノ如クナリカ
以下カ
事實
大隈氏自
其明解ノ在ル有リ即チ一千八
百六十八年(明治元年)ニ於ケル歲入ハ表中ニハ

三千三百八万四千五百七十九圓其
實歲入ト稱シ得ヘキ
モハ僅ニ三百六拾六万四千五百七十九圓ト是レ歲
入トシテ事青ニ
是レ紙幣ノ發行スル
モ當時王政革新ノ初年ニシテ幕府ノ殘黨猶ホ
天下ニ充滿シ所々戦争止ム時ナカリシヲ回想
スレハ復タ怪シムニ足サルナリ
足下言フ所ノ第二ノ事實即チ一千八百七十八
年乃至七十九年(明治十一年十二年)ニ於テ租稅
ハ六千一百八十六万四千五百七十九圓ト記スレ
ル紙幣ハ
千五百七十七万四千五百七十九圓ト見ルト云ヘリ

是レ蓋シ足下大藏卿カ明治十一年乃至十二年
ニ於テ該年ノ全歲入ヨリモ巨額ノ紙幣ヲ發行
シタリト考フルモノ、如シ然レハ紙幣發行ノ
表面ニテ一目ニ其考定ノ不適當ナルヲ証明ス
ヘシ足下一千八百八十年(明治十三年)通用上ニ
殘留スル紙幣全額ヲ誤算セシト見ヘタリ右ハ
一千八百六十八年(明治元年)以來總テノ發行ノ
全額トシテ明治十三年ノ發行ノ額トシテ流
ルルモノナ
リ此紙幣ハ一千八百七十八年乃至七十九年(明
治十一年乃至十二年)ノ租稅ニ關係ナキノミナ

ラス該年ニ在テハ決シテ紙幣ノ發行アリト
シ況ニ却テ同表ニ明示スルカ如ク明治十二
年ノ巨額ノ紙幣
其額四十七
百四拾貳万四ナリ又其次一千八百七十七年
乃至八十年明治十二年乃至十三年ノ歳入ノ全
額ハ五千四百五拾五万四ナリ云云ニ付テ足下
明治十二年乃至十三年ノ租税ノ陳述ニハ六千
一百八拾万四ナリト記載スルカ故ニ稍ヤ疑團
ヲ惹起スルモノ、如シ然レモ是レ足下其表中
字行ヲ誤認シタルヘシト察ス即チ足下ハ一千

八百八十年乃至八十一年(明治十三年乃至十四
年)ニ於ケル計算ヲ引用シタルヘシ目下論題ノ
年度ハ一千八百七十九年乃至八十年(明治十二
年乃至十三年)ニシテ其歳入ハ即チ五千一百二
拾八万四ナリ余輩顧フニ此金額ハ足下引証ス
ル所ノ計算ヨリ稍ヤ少額ナリ然レモ政府ニ收
入スル巨大ノ歳入上ヨリ看レハ些少ノ事ニテ
誤ラズトモ此レハ一ナ
此レハ入ル租税ヨ
リ來ルノミナラズ自餘ノ大利源即チ山林鑛道
官立製造所等ヨリ來ルヘキハ今更喋マヌルニ

及ハサルナリ
結末ニ於テ猶ホ足下ヲ考定ヲ駁セサルヲ得サ
レニハ是レハ已
ナリ足下彼ノ冊子中言フ所ノ明治政府ノ負債
ハ僅少ニシテ其負債ノ多分ハ舊政府ヨリ引継
ナリト云テ非難セリ即チ冊子ニ明治政府ノ負
債ハ只三千七百三拾四万圓ノミナリト云ヘ
薩賊征討費ノミニテモ四千一百万圓ヲ費セシ
ニ非スヤ而シテ國債表面ニハ僅ニ一千五百万
圓ノミヲ出セルハ奇怪ナリト云フヘシト是レ

蓋シ日本ノ會計法ノ此部ニ於テ國債表面ノ製
ニ不規則アルヲ見ルナリ然レモ此ノ不規則モ
直ニ明解ニ至ルヘキハ最モ容易ナリトス
抑モ薩賊征討ノ為ニ四千一百万圓以上ヲ費用
セシ事實ハ真ニ然リ而シテ大隈氏既ニ其冊子
ニ於テ紙幣發行ノ已ムヲ得サル額數ヲ詳明ヤ
リ是レ余輩カ一千八百七十九年(明治十二年)ノ
下ニ是レハ四千七百七十万圓ノ額數アリ而
シテ一千五百万圓ハ借入金ヲ以テ募收シタル
カ故ニ此金額ハ表面上國債ノ部ニ見ヘタリ右

等二個ノ金額ヲ合算スル中ハ薩賊征討費ノ全
額ヲ得ベシ故ニ此場合ニ於テ大藏卿ヲ非難ス
レハ其當ヲ得ナリ猶又タ此ノ條ヲ以テ
モ其統計表ノ過失ナキヲ証スヘシ是レ余五望
ム所ナリ此冊子ヲ潛心弄味スレハ大隈氏ノ制
定セシ日本會計ノ順序ニ就テ誰モ疑團ヲ抱ク
モノナカルヘシ是レ幼穉ノ國ニ在テ夙ニ歳入
出豫算決算ノ方法ヲ採用シ普ク内外人ノ為ニ
翻譯シテ世上ニ明告セラレタルハ其實証ナリ
ト云フヘキナリ拜具

一千八百八十一年七月二十七日

在別林

本多安直

倫敦支那電報新聞記者

足下

